

第2次富山市総合計画審議会「第3回 都市・環境部会」 議事録

日時：2016年1月6日（水）14:00～14:40

場所：富山市役所 第4委員会室

出席者：（順不同）

神川康子	富山大学理事・副学長（部会長）
大川内秋弘	富山防犯協会会長
大窪宏充	婦負森林組合代表理事組合長
小杉邦夫	NPO 法人日本防災士会・富山県支部 支部長
清水一夫	富山医療圏メディカルコントロール協議会会長
高山純一	金沢大学理工研究域環境デザイン学系 系長・教授
武山良三	富山大学芸術文化学部学部長・教授
武藤玲子	公募委員

企画管理部	上谷理事、西田次長、酒井参事、清水主幹
農林水産部	篇原次長、蛭谷次長
市民生活部	清水次長
都市整備部	高森次長
建設部	帯刀次長
環境部	西中次長
上下水道局	増山次長
消防局	戸川次長
婦中総合行政センター	保井次長

議事内容：

1. 開会
2. 部会長挨拶
3. 第2次富山市総合計画基本構想（素案）について

○資料「第2次富山市総合計画基本構想（素案）」に基づき事務局より説明。

委員

- ・ P17、p21等、6か所で、「安全・安心」の言葉が逆になっている。

事務局

- 「安心・安全」でそろえるということで整理している。

部会長

- ・ 安心して、暮らせるということを優先した形になっている。

委員

- ・ 防犯関係は「安全・安心」だと考える。

委員

- ・ 文科省では「安全・安心」を用いている。安全が最優先で、安心のための必要条件としての安全。

委員

- ・ 医療関係だと「安心・安全」が用いられる。安全が先に来ると、物理的な安全のもとに安心を得るという流れになってしまう。広い意味で捉えれば安心があって、安全でいいのではないか。

部会長

- ・ 人を中心に考え、人の心が安心できる背景に安全という物理的環境、ヒト、モノ、カネ、空間がある。他の部会ので了承が得られれば、広い意味で捉えて「安心・安全」で統一するということがよいのではないか。

委員

- ・ 武藤：P21（2）政策1「施策（1）災害に強く回復力のある安全なまちづくり」のところに、東日本大震災で被災した地域を鑑みて、「迅速な復興力がある」ということも必要ではないか。復興できる施策、基盤の充実等の力強い言葉を災害対策に追加したほうがいいのではないか。

部会長

- ・ 行政、地域、個人が協力して復興していくことになるので協働にもつながる。他力本願でないという意味も含めて「復興力」にもう少し「迅速な」等の力強い意味合いをもつ表現があったほうがいいのかもわからない。

委員

- ・ p16 基本構想の2. 都市像の中に「富山らしさ」とあるが、1. 基本理念に「富山らしさ」が入っていないのでは意味がないのではないか。1. 基本理念に富山市が推進している「環境」というキーワードを盛り込んでほしい。それが富山らしさを表現する一つの方法ではないか。「都市と自然がともに調和をしながら、それぞれの機能を高める・・・」とあるが、「自然が機能を高める」というのはおかしい表現に感じられるので、（環境という言葉との）組み合わせを考えるとときにそういう内容もふまえて検討いただきたい。
- ・ 1. 基本理念の枠内に「安らぎ」とあるが、「安らぎ」という言葉は静かな言葉。プラスして富山市としての魅力を作っていくように、元気なまちをイメージできるようなキーワードを入れていただきたい。
- ・ 全体の流れにちぐはぐな点が見受けられ、骨格がしっかりしていない。例えば目次を見るとわが国を取り巻く状況、富山市を取り巻く状況とあるが、自然災害等の我が国を取り巻く状況に対して富山市はどのようなポジショニングをとるのか、どのような対応をしているかを対応させて書くことで、我が国を取り巻く状況と富山市を取り巻く状況を別に書く意味があるのでは。全体的な見通しと富山市としての見通しが互いにリンクしていくことが必要で、それが基本目標にも流れていくように組み上げられればよい。
- ・ 基本理念はすべてのセクションに必要なこと。「環境」というキーワードを入れてもらい、すべてのセクションにフィードバックしてもらいたい。基本理念は横軸（横串）であるという構造が見えるようにしてほしい。基本目標の「都市・環境」は「都市・自然」としてもよい。基本理念に「環境」が入れば、横軸（横串）として全てに関連付けられる。

部会長

- ・ 環境という言葉は全てを網羅する言葉ではあるので、具体的に基本理念に環境を入れるかどうか調整部会で検討したい。

委員

- ・ 環境よりは「環境都市」としたほうがよい。富山市は日本では環境においてトップランナーであると認識されている。“世界の環境都市富山”ということが明るい目標としてあり、誇りにもつながるので、基本理念に盛り込むべきでは。

部会長

- ・ まだ課題はあり、達成されていない自覚も必要だが、目指す方向性は「環境都市」としてよいのでは。
- ・ ストーリーがうまく流れていないというご意見だが、日本の課題が富山の課題であり、富山の課題が日本全体の課題でもある。ただ、わが国の問題はそれほど大きくとりあげず、あくまでも軸足は富山に置き、わが国の状況に富山市はどのように応えているかを書くことで、流れを検討する。大きな変更は難しいが、場所の入れ替え等ちょっとした調整でストーリーが流れることもあるので、調整部会で調整いただきたい。

委員

- ・ 全体的にはまとまっているが、富山市の強みをもっと出したほうがよいのではないかと。それが富山らしさにつながる。よく比較される金沢との違いとして知名度やブランド力が弱点としてある。p14、3. 主要課題「⑩シティプロモーションの推進とシビックプライドの醸成」と掲げているので、もっと遠慮せずに強力なイメージを前面に出したらどうか。

部会長

- ・ 金沢と競うのではなく、富山の強み、特徴を出していくということでよいのでは。

委員

- ・ P21、(2)「政策2 コンパクトな(拠点とネットワークの)まちづくり」の「(拠点とネットワークの)」は括弧書きにしているが、何を意味しているのか。「コンパクトな」は何にかかるとはよくわからない。()は不要ではないか。

事務局

- もともとコンパクトなまちづくりは富山市の主要施策としてある。ご意見をもとに周辺部の方がたを切り捨てるのではなく、公共交通を軸としてそれぞれの地域に拠点性を持たせるという都市像を無理やり表現するために入れた。富山市が進めるコンパクトなまちづくりは中心部に全部集めるということではない。意味合いとしてはコンパクトなまちづくり＝まちなかだけでなく、周辺の拠点地域も整備していくということも含まれる。()はとり、誤解のないように説明する文章を入れる、または施策2のタイトルを変える等検討する。

部会長

- ・ いただいたご意見を調整部会で調整したい。基本構想は大筋であるので、この後に詳細な計画が入ってくるので、いただいたご意見を実現できるような施策を具体として打ち出していければと考えている。

以上